

☆南伊勢町立南島中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

多くの子どもたちは、地域や家庭で大切に育てられ、また行政や学校からの手厚い支援によって、落ち着いた人間関係を築くことができます。一方で様々な要因により、自分に自信が持てず、学習習慣等が身についていない子どもの姿もあります。そうした子どもたちの課題を解決するために、多様な主体が参加している「青少年育成町民会議」と連携して、「南島中学校区子ども支援ネットワーク」を構築し、地域の大人が一体となった、活動の創出をめざして取り組みました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 地域学習（南島中学校）

土曜授業日に、南伊勢町商工会議所が発行した南伊勢学検定テキストブック「あばばいっ南伊勢」をもとに地域学習を行いました。ふるさとに誇りを持つ子どもを育てるために、地域住民が講師となり、全校の子どもたちに南伊勢町の自然、食、歴史、文化、産業、暮らし等について話をしました。

子どもたちからは、自分たちが住んでいる地域について「知らなかったことを知ることができた」「地域の素晴らしさを再確認できた」等の感想が多くありました。



地域住民による地域学習

(2) あじっこ集会（南島西小学校）

子どもたちがアジをさばいて干物にし、それを食べることで地域の良さを感じようと「あじっこ集会」を実施しました。全校の子どもたちによる取組として、多くの保護者や地域住民が参加し支援をしました。

事前に地域の魚屋さんにて干物の作り方を教えてもらいました。5年生は、教えてもらったことや魚について調べたこと等を掲示したり、クイズを出したりしました。また、5・6年生は、1～4年生にアジのさばき方等の方法を教えながら、干物づくりを進めました。出来上がったアジの干物は、給食で食べたり、家で家族と一緒に食べたりしました。また地域の特別養護老人ホーム等にも届けました。



アジをさばく様子

参加した子どもたちにとっては、他学年と協力して活動する場を多く持ったことで、他学年との関係を深める取組となりました。また、高学年にとっては、頼りにされる場面が多くあり、自信を深める機会となりました。

(3) キャンプ（南島東小学校）

保護者や地域住民が5・6年生のキャンプ学習の支援を行いました。

子どもたちは、自分たちの立てた計画に基づき、一人ひとりが責任を果たし、協力して活動を進めることをめざして、食事づくり、水泳、キャンプファイヤー等に取り組みました。また、健康や安全に気をつけることや、災害等、緊急時の簡易食事の体験をすることも重要な目的として活動を進めました。

保護者、漁師の方々支援を行った「たてぼし体験」では、子どもたちは漁業に興味を示し、魚の処理の仕方等を知ることができました。

子どもたちにとっては、海が身近にある環境でありながら、海で泳いだ経験が少なく、生きた魚に触れることや調理の経験がない等の現状から、地域を見直すよい機会となりました。



たてぼし体験

◆実践を振り返って

既存の組織やつながりを活用してネットワークを構築してきたことにより、地域の子どもの課題や解決のための方向性がより共有され、地域連携が推進されたのではないかと考えます。「自尊感情」「学習意欲」「地元愛」について問うアンケートにおいて、「地元愛」に係る結果が高かったことは、ふるさとを誇りに思う子どもを育てるために、町全体で重点的に取り組んできた成果と考えられます。

取組を通して、課題解決のためには、ネットワークの取組をさらに継続していくことが重要であることを再確認するとともに、地域の協力を大きな強みとして認識しながら取組を活性化していきたいと考えています。